

今自分が考える「じつ」

客員研究員 小西 信樹（愛媛銀行）

はじめに

えひめ地域政策研究センターを卒業して早1年がたった。あつという間の1年だったが、停滞していた日本経済にもようやく明るいきざしが出てきたと感じる。特にここ最近の株高で含み益を得た顧客の投資意欲、購買意欲は相当なもので、このムードが大切なのだとつくづく思う。

松山市の南環状線沿いにあります



今回卒業レポートの依頼があり、今までの舞たうんの先輩諸氏のレポートを読み返してみた。今も地域で率先してまちづくりに取り組んでいる話、2年間の研究員時代の思い出話、人との出会いや、印象に残った訪問地の話等々。しかし私にまちづくりを詳しく語る能力もないので、今自分が思っていることを書くと思う。

まちづくりって？

まちづくりという言葉から一般の人は何を連想するだろうか？

まず大半の人が都市計画や道路整備のことを考えるのではないだろうか。恥ずかしいことにセンターにくるまでの私がそうだった。センター赴任後も会う人によく「今どんな仕事してるの？」と聞かれ「まちづくりに関わる研究や実践をしています」と言ってもよくわかってもらえないことが多かった。（もちろん今なら相手がわかるように自信を持って説明できますよ。）

そして県や各市町村が真剣に取り組んでいるまちづくりが県民の意識に浸透していないのはどうしてなんだろうと思いつくりについてどう考えるか聞いてみたが、もともとそういった意識が希薄というかないというものが結論だった。都市部ではもちろんそうなのだが、田舎でも一部の熱心な活動家以外はあまり意識してないというのが実感である。

けれども無意識にやっていることが結果的にまちづくりになっているということは



大人とも真剣な対局

あるかもしれない。ここで一口にまちづくりといってもさまざま。青年団活動を通じたまちづくり、6次産業を通じたまちづくり、またスポーツや趣味、町内会や老人会、商店街のイベント、観光、食、芸術、これらにうちこむことが人の気持ちや幸せにし、そして少しでも現金収入があれば、モチベーションが持続し、それはそれでよいのだろう。私も自分の携わる仕事である以上、だいそれたことはできないが、仕事を離れた時自分の得意分野にうちこむことが結果的にまちづくりにつながればいいんだと思うようになった。そうして満足感を得られれば、その満足感が人の心を豊かにし、家庭にもそして地域にも還元できたらいいと思う。



私と将棋

話は変わって、将棋が趣味で30年続けている。本格的に始めたのは大学時代からで、棋力は日本将棋連盟の四段免状を持っている。これはどのくらいかという、愛媛県代表になるのに今一歩というところである。プロ棋士の羽生善



はてどちらが勝つてののか

上達速度には大きな差がある、というよりも大人は全く伸びない人もいる。

スペシャリスト養成法

そうしてみると、なんでも子供のうちから集中的な教育を行えば、将来相当のことが期待できると思う。私の好

う。現実的には難しいだろうが、これくらいの情熱はあってもいいのではなからうか。

将棋を通じたまちづくりは可能か？

将棋を指すことにより、子供たちを通して各世代がふれあうことも可能である。子供たちが集まり、ワイワイにぎやかにやっているのに接すれば年配者は元気をもらえるところだし、地域活性化にもつながるのではないかと考える。

お隣の囲碁界では「ふれあい囲碁」としてそういった子供を対象とした巡回教室もやっているようで、事業化もされていると聞く。将棋でも手をあげる人がいれば、盛り上がるのではないだろうか。

最後に

まだ私自身まちづくりを実践しているとはとても言えないが、日々の生活の中でそれを心に留め置いて、いつかお役に立てることができればと思う。これからのえひめ地域政策研究センターのご発展をお祈りしています。

実戦は松山将棋センターがホームグラウンドである。ここは小学生からこども教室を開催しており、たくさんの子供たちが日々鍛錬している。ここで気になるのが、子供たちの上達の早さである。古い言い回しで、寝る子は育つというが、子供たちはまさに「朝起きたら強くなっている」のだ。これは本当であり、おそらく睡眠により学習したことが脳の記憶に大きく影響するのだと思われる。もともと優秀な子供だけが強くなるのではなく、ほぼ全員が短期間で強くなり、ルールを覚えてわずか数年で私とも対等の勝負をするまでに成長するが、大人ではまずこうはならない。東大を出た人と普通の子供が同じ習い事をしていてもその

きな映画インファンルアフエアでは、マフィアの親分が自分の子供に幼いうちから高度な教育を行う。彼は優秀な成績で警察学校を卒業して幹部候補生として警察に就職し警察の中で出世コースを歩むが、すべてはマフィア組織のためであった。だとすると小中学校から徹底的なまちづくり教育を行い、また自分の子弟は大学でまちづくりコースを選択させ帰省後は起業したり役場でそれなりのポストを用意して活躍してもらおうの、がいいと思



君は何年生かな



ピースも手慣れたもの